

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4572000679
法人名	有限会社すいせん
事業所名	グループホームすいせん高鍋
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字上江6649-145 (電 話) 0983-23-2351
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 3 月 26 日

【情報提供票より】(21年 2 月 28 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 12 日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計		9	人
職員数	8 人	常勤	3人, 非常勤	5人, 常勤換算	5.6人

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄筋 平屋 造り
	1階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) ☒ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ☒ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり	1,000 円	

(4)利用者の概要(2月 28日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低 69 歳	最高 92 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	内田医院 浜本歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高鍋町西方郊外に点在する民家と緑豊かな環境の中にホームは立地している。リビングからウッドデッキを設置した広い庭が見える。利用者は、なじみの管理者や職員のきめ細かな支援に支えられ、安心して穏やかな生活を送っている。家族の来訪者が多く、運営推進会議や家族会に参加して意見を運営に反映する等積極的である。地域の人々とも運営推進会議等を通して非常に密接な関係を築いており、行事等の参加交流も行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
①	この間職員の異動や離職者がなく、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように職員の体制が整いつつある。改善課題に積極的に取り組み、運営推進会議を活性化して、地域との交流、買い物など外出の機会も増え、地域消防団の協力による避難訓練も実施している。また、日中玄関に鍵をかけないケアも取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目③	管理者、計画作成担当者を中心に職員全員で取り組み、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、地域から民生委員、公民館長、老人会の代表者など幅広い立場の人が参加して、ホームの運営状況や外部評価の結果についての報告や災害時の対応について活発な話し合いを行い、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目⑤	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議に家族の出席者が多く、質問や意見・不満等を気軽に言える雰囲気づくりに努めている。また、家族会も定期的に開催し、意見を運営に反映させている。
重点項目⑥	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣住人や民生委員会の訪問、ボランティアの受け入れがあり、保育園児との交流も取り組まれている。管理者が地区の自治会総会に出席し、地元の人々との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症高齢者の自立と尊厳を重視し、地域に貢献できるホームの実現を図る」を理念としているが、利用者がその人らしさを保ち、のびのびと楽しく暮らしていけるようなわかりやすくやさしい言葉に換えようと検討をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの中で、利用者が自立することを中心に、言葉かけによりできたり、できなかったりということ等、理念を共有し、この実現に向けた支援に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館長や老人会長が運営推進会議やホームの行事に参加し、報告や話し合いを行っている。公民館長の前向きな話がある等、サービスの向上に活かされている。ボランティアの来訪や、保育園児との交流にも取り組んでいる。管理者が地区自治会総会に参加し、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義とねらいについて全職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果については、改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、公民館長、老人会長、民生委員、町担当者、そして家族のほとんどが出席し、質問、意見、要望等を気軽に言える雰囲気づくりに努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者に対し、ホームの理解・支援をってもらう働きかけを行い、気軽に相談できる環境になっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪ねてきた機会をとらえて、暮らしぶりや健康状態等きめ細かに伝えている。また、必要に応じて電話でも報告している。2か月に1回ホーム便りを発行している。		ホームの行事や地域との交流などについてもホーム便り等を利用して家族や地域の人々に情報の発信を工夫してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、ホームの運動会の時に家族会を開催している。推進会議にほとんどの家族が参加し、質問、意見、不満などを気軽に言える雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職者も無く、利用者はなじみの職員に支えられ安心して生活している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の質の確保・向上に向けた育成を理解し、外部の研修や内部研修の機会を作っている。また、研修報告は、毎月の全体会議で発表し、報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加して、勉強会や情報交換を行い同業者との交流を深めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になんか馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、ホームを見学してもらったり、職員が病院や施設等を訪問して利用者が職員やサービスの場になんか馴染めるように配慮し、家族と相談しながら安心して利用できるような工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、人生の先輩であるという考えを共有し、一緒に暮らしながら、生活の技や言葉づかい等多くのことを学び、お互いの信頼関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中から、利用者の暮らし方の希望や意向の把握に努めている。また、家族を交えての話し合いも行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアのあり方について、職員会議等で全職員で意見交換を行い、本人や家族の意向を反映した利用者本位の介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全職員で話し合い、介護計画を作成している。	○	状態の安定しているような利用者の場合も、毎月1回モニタリングを行い、介護計画の見直しを行なってほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況に応じて、通院や外出、誕生日やお正月には家族と過ごす等多機能を活かした支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を基本としているが、ほとんどの利用者が協力医院をかかりつけ医としており、4週間に1回往診があり、気軽に安心して相談ができる関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族との話し合いは行っているが、最後の看取りまでは行っていない。状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、チーム連携でケアの質の向上につなげたいという思いがある。	○	ホームの状況では、重度化や終末期の受け入れが望まれており、その対応について、運営者、職員全員で話し合い、方針をたてて共有してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの個性、生きてきた背景、性格等を配慮し、人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応がないように細心の注意をしている。また、職員は個人情報保護法の理解に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、利用者の体調や希望に合わせて、自由に本人のペースで楽しく暮らせるように柔軟に支援している。また、家族を交えての話し合いも行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望に配慮して、季節の食材を採り入れた食卓を囲んで、利用者と職員が同じ料理で楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回を基本としているが、利用者一人ひとりの希望やその日の状況に合わせた入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボール遊びやぬりえ、パズルやブロックなど一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごとが作り出せる支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と一緒に庭に散歩に出たり、近くの店まで買い物に出かけたり、花見やドライブに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関の鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署・地域消防団の協力を得て、年2回避難訓練を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取量はチェック表で毎日管理しており、町役場管理栄養士の指導も受け、バランスの良い食事内容となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は全体的に余裕のある造りで、リビングの窓からウッドデッキを設置した広い庭が見え、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるように工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や家族の写真等が持ち込まれ、居心地よく生活できるように工夫がされている。		